

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第112号

[2019年2月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第112号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動を偶数月の中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

賛助会員の皆様へ 会員更新のお願い

新刊のお知らせ

国内から

編集後記

次号の予定



賛助会員の皆様へ 会員更新のお願い

平素よりメータオ・クリニック支援の会（JAM）の活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当会は賛助会員の更新時期を年末に揃えさせていただいております。

平成30年の会員期間は平成30年12月末をもちまして終了となっております。

更新後の会員期間は平成31年12月末までとなります。

まだ更新のお手続きをお済みでない方々で今後とも引き続きご支援、ご賛同いただける方はお手数をおかけいたしますが、下記の要領にて会員更新の手続きをどうぞよろしくお願いいたします。

更新のお手続きをしていただいております皆様、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

なお、更新を希望されない方につきましては、手続きはご不要です。またご支援いただける機会をお待ちしております。

ご不明な点は、事務局 (support@japanmaetao.org) までお問い合わせください。

賛助会員 更新手続き（年会費入金）の方法について

■下記の年会費をお振込みください。（ゆうちょ銀行への振込もしくはクレジットカード決済）

<年会費> 一般会員： 3,650円/年
学生会員： 1,825円/年
法人会員： 36,500円/年

<振込先口座>

ゆうちょ銀行（銀行コード9900）
支店名：〇一八（ゼロイチハチ）
口座番号：普通0896084
口座名義：NPO法人 メータオ・クリニック支援の会
（カタカナ） トクヒ）メータオ クリニックシエンノカイ

<ゆうちょ銀行の口座からお振込みの場合>

口座番号：10140-8960841
口座名義：NPO法人 メータオ・クリニック支援の会
（カタカナ） トクヒ）メータオ クリニックシエンノカイ

<クレジットカード決済をご希望の場合>

JAMホームページ (www.japanmaetao.org) 内にある



「あなたとできること」→「賛助会員になる」の下「クレジットカードによるお申し込みはこちら」へお進みください。

※ 当会が入金の確認をもって手続き完了となります。
メールにてお知らせいたしますのでご確認ください。

※ 入金後、確認まで数日かかる場合がありますのであらかじめご了承ください。

※ 万が一、2週間以上経過しても当会からの連絡がない場合は、お手数をおかけいたしますが事務局までご連絡ください。

■注意事項

・住所、氏名、メールアドレスに変更がある場合および振込名義がご本人でない場合は、事務局 (support@japanmaetao.org) までご連絡ください。

新刊のお知らせ

このたび、メータオ・クリニックとの交流と支援を続けた10年間を綴ったりレーエッセイを書籍にまとめました。

2月に全国の書店にて販売予定と前回の会報でお知らせいたしましたが、少々遅れこんでいます。楽しみにしてくださっている皆様には、お待たせして申し訳ございませんが、もうしばらくお待ちください。

新刊の予告チラシはできておりますのでチラシの画像を添付しました。具体的な発売日が確定しましたら、会員の皆様には改めてお知らせいたします。

ぜひ、お手に取ってご覧いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます

タイトル：国境の医療者

編集：NPO法人メータオ・クリニック支援の会

写真：渋谷敦志

発行：新泉社

予価：1800円＋税

なお、すでに発売している『タイ・ビルマ 国境の難民診療所—女医シンシア・マウンの物語』(新泉社、1800円)もよろしくお願ひします。(アマゾンでも買えます→)



○新刊図書のご案内

2019年2月発行予定

新泉社

tel:03-3815-1662 fax:03-3815-1422 http://www.shinsensha.com

国境の医療者

NPO法人メータオ・クリニック支援の会 [編]

写真:渋谷敦志



タイ・ミャンマー国境の町で30年にわたり、
難民・移民に無償診療を続けている「メータオ・クリニック」。

国際ボランティアとして、体当たりで赴任した日本の医療従事者たちが、
現地スタッフや患者とともに戸惑い、傷つき、成長し、
交流と支援を続けた10年間を綴った珠玉のリレーエッセイ。

〔予定目次〕

- I 国境の難民診療所～体当たりの医療支援～ 田邊文(二代目派遣員)
- II 国境の医療者～なんでも屋、とさどき看護師～ 船川由佳(三代目派遣員)・田畑彩生(四代目派遣員)
- III 国境の変化のなかで～できることを一歩ずつ～ 鈴木みどり(五代目派遣員)・神谷友子(六代目派遣員)・齊藤つばさ(七代目派遣員)
- IV 国境を見つめ続けて 橋 薫子(初代派遣員)・シンシア・マウン(メータオ・クリニック院長)・小林 潤(支援の会代表) ほか

四六判並製・予価1800円+税

*ご予約・ご注文のお客様は、以下に必要事項をお書き添えのうえ、書店にお申し込みください。

新泉社

東京都文京区本郷2-5-12 TEL (03)3815-1662 FAX (03)3815-1422

新泉社	新泉社		fax.03-3815-1422
	2月予定	NPO法人メータオ・クリニック支援の会 編	
		国境の医療者 (原)	
		ISBN978-4-7877-1902-7 C0095	予価1800円+税
ご住所	冊		電話番号



国内から



【東京＝渡邊 稔之】

医療従事者が行う研究について

いつもご支援いただきありがとうございます。正会員の渡邊稔之と申します。私がこの会報に記事を書かせていただくのは、2011年12月、2013年10月、2015年8月、2017年4月に続いて5回目になり、2年という年月はあっという間だなと実感しています。

毎日、外来や病棟で多くの患者さんを診察させていただいていますが、臨床を行いつつも、いつも「臨床研究したいなあ」と思っています。

臨床で働いていると、日々の業務について色々と疑問がわいてきます。例えば、「液体石けんで手を洗うのと、消毒用アルコールを使うのとどちらが感染対策になるのだろうか」、などです。私の専門は脳卒中ですが、例えば「Aという薬とBという薬のどちらが脳梗塞の再発予防の効果が高いのだろうか」といったテーマが思い浮かぶかもしれません。そのような臨床上の疑問は「クリニカル・クエスチョン」と呼ばれ、これは実際に臨床の場面で働いている人（医療従事者）ではないと思いつくのは難しいと言われています。そしてこのクリニカル・クエスチョンに答えを出すには、小さいなりに「研究」することが必要だと思います。

研究というと、iPS細胞のように大学あるいは研究所の実験室にこもり、実験動物や細胞を使い、クリーン・ベンチや顕微鏡などを使って…という光景が思い浮かぶかもしれません。新しい薬の開発も、少なくとも一番最初の段階はこのように実験室から生まれるものでしょう。実は私も昔1年間だけ、毎日実験室で顕微鏡をのぞき込んでいたことがありました。こういった研究は「基礎研究」と呼ばれますが、日本人のノーベル賞受賞者の方の多くは基礎研究で受賞されている通り、日本の基礎研究のレベルは高いと（少なくとも私が大学にいたときは）言われていました。

一方、臨床研究はどうでしょうか。臨床研究は多くの場合、細胞も顕微鏡も実験室も必要ないでしょう。ただ実際の臨床の中でデータを集めたデータと個人用パソコン、統計解析ソフトが必要です。例えば前者の例だと、（現実にはないかもしれませんが）「液体石けんのみで手を洗った病棟と、消毒用アルコールのみを使った病棟で、院内発症の感染症の発生率を比較する」ためのデータが必要になります。この「何と何を比較するのか」「どうやってデータを集めるのか」という部分は、「研究デザイン」と呼ばれる部分で、研究の核となる部分です。臨床研究にも色々な種類がありますが、いずれもまず最初にクリニカル・クエスチョンがあり、研究をデザインし、データを集め、データを統計解析ソフトで解析するという流れは変わりません。

そして、解析結果は基本的には世の中に発表する必要があります。具体的には学会発表と論文執筆を指します。学会発表は口頭プレゼンテーションあるいはポスター発表ですが、ある意味「発表したら終わり」なので、きちんと世の中に結果を残すには論文として文章にまとめる必要があります。しかも多くの人に読んでもらうには英語で書く必要があります。なぜならば日本語論文は基本的に日本語を母語とする人にしか読んでもらえませんが、英語で書くと世界中の人に（おそらく10倍以上の人に）読んでもらえるからです。

この過程は多くの時間と労力を要するものですが、医学の発展はこのような一つ一つの研究論文の積み重ねによってなされるものだと考えています。そして論文を検索すれば検索するほど、世の中には答えの出ていない問いが無数にあることがわかります。例えば、患者さ



人にはよく「これは効くんですか？効かないんですか？」と2択の質問されます。しかし医学の領域において、シロかクロかはっきりしていることの方が圧倒的に少なく、ほぼ全ての事象は「グレー」です。ただ白寄りのグレーと黒寄りのグレーがあるので、そこがわかっている医師は「おそらく効くが、効かない場合もある」というような、はっきりしないような返答をせざるを得ません。ただ患者さんは週刊誌やワイドショーに出ている「これは絶対に効きます！」とはっきり断言する医者言うことを信じがちのようです。

最後の方は少し脱線してしまいましたが、平日日中は病院で働きながら、夜や休日の時間を使って研究を行うというのは結構大変なことです。しかし少しでも医学の進歩に貢献するには、少しずつ研究も行っていかないといけないな、と思っています。その過程には、臨床で患者さんを診ることとは別の種類の興味深さを感じています。

編集後記

寒い日が続きます。この冬は、靴下用カイロを毎日使っています。かなり快適です。でも、机のパソコンに向かって集中しているときにうっかり靴を脱いでしまうと高温になるため、まるで真夏の砂浜状態で歩く羽目になるので注意が必要です。

次号の予定

毎号、読んでいただき、誠にありがとうございます。齊藤看護師の帰国に伴い、現在、現地派遣員は不在のため、今年から隔月の発行にさせていただきます。次号は、4月中～下旬ごろ配信の予定ですのでどうぞよろしくお祈りします。

現地からの最新情報は、インスタ、ツイッター、ホームページでも、随時更新していきますので、ぜひ、お時間があるときにご覧ください。

日頃から、メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。支援の輪が広がっていけるよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1日10円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。

【一般会員】3,650円/年

【学生会員】1,825円/年

【法人会員】36,500円/年

当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。





NPO法人メータオ・クリニック支援の会 **Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)**

日本事務局宛て Eメール	support@japanmaetao.org
JAMウェブサイト	www.japanmaetao.org
Facebook	Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM) で検索して下さい。 https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/
Instagram	https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/
Twitter	https://twitter.com/japanmaetao

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

